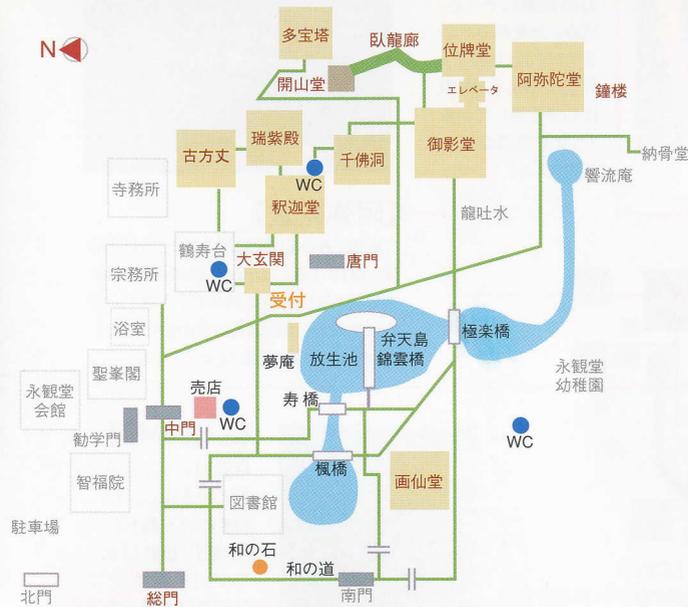




浄土宗西山禅林寺派 総本山
永観堂 禅林寺

境内のご案内



浄土宗西山禅林寺派 総本山 **永観堂 禅林寺**
 〒606-8445 京都市左京区永観堂町48
 TEL: (075)761-0007 FAX: (075)771-4243
<http://www.eikando.or.jp/>
 デザイン・原稿 銀匙社



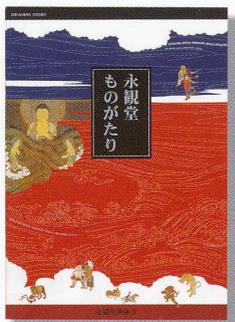
交通機関のご案内

- JR「京都」駅から市バス5系統「南禅寺・永観堂道」下車、徒歩3分
- JR「京都」駅から市バス100系統で「東天王町」下車、徒歩8分
- 地下鉄東西線「蹴上」駅下車、徒歩15分
- 京阪「三条」駅から市バス5系統で「南禅寺・永観堂道」下車、徒歩3分
- 京阪「神宮丸太町」駅から市バス204系統／93系統で「東天王町」下車、徒歩8分

永観堂 禅林寺の歴史

永観律師をさかのぼること、二〇〇年あまり。禅林寺は真言密教の寺として始まりまし
 た。八六三年、弘法大師の高弟・真紹僧都が、
 清和天皇から寺院建立の許可をもらい、禅林
 寺という名を賜わったのです。
 禅林寺が大きく発展したのは、永観律師の
 時代です。律師は、境内に施療院を建てるな
 ど、恵まれない人々のために奔走。永観律師
 を慕う人々によって、禅林寺はいつしか、永
 観堂と呼ばれるようになりました。
 鎌倉時代に住職となった静遍僧都は、高名
 な真言宗の僧侶でした。お念佛をとるだけ
 だけで救われるという教えに反発をおぼえ、自
 分のほうが正しいと証明しようと、法然上人
 の著書を開きました。ところが、いくら読ん
 でも「間違っているのは自分では」と思わ

られることばかりでした。ついに、静遍はお
 念佛の教えに深く帰依します。そして法然上
 人のまな弟子・証空上人を次の住職として招
 きました。
 証空上人は、すべてを阿弥陀佛にまかせき
 つてとなえるお念佛の大切さを説き、「白木
 の念佛」と名づけて、人々に勧めました。そ
 れは、阿弥陀さまが私たちのような者でも一
 人残らず救ってくださることへの喜びの念佛
 といっていました。のちに、禅林寺は、
 法然上人を宗祖に、証空上人を派祖にいただ
 く、浄土宗西山禅林寺派の総本山となりました。
 永観堂 禅林寺は、はるか平安の昔から、称
 名念佛の根本道場として、阿弥陀さまの慈悲
 のこころを護り伝えていきます。



『永観堂ものがたり』

- 禅林寺の歴史とお念佛の教えを、難しい佛
 教用語を使うことなく、平易に説明してい
 ます。
- 禅林寺に関わるちょっとしたエピソードや、
 佛教や浄土教の知識を拾い読みできるよう、
 レイアウトに工夫を凝らしました。
- 見どころを多角的に紹介して、境内の散策に
 便利。建物や佛像・宝物など、カラー写真で、
 楽しめます。

*境内の「売店」でお求めください。

みかえり阿弥陀と永観律師

永保二年（一〇八二）二月十五日早朝。阿弥陀堂に人影がうごく。夜を徹して念佛行に励んでいる僧侶がいるらしい。

東の空がしらじらとし始めた。ふっと緊張がとけた一瞬、僧は息をのんだ。自分の前に誰かがいる。それが誰か気がついて、足が止まった。

「永観、遅し」

ふりかえりざま、その方は、まつすぐ永観の眼を見つめられた。永観堂禅林寺のご本尊は、首を左にかしげ、ふりむいておられます。ほんの少し開かれたお口。お顔全体にただよう穏やかな微笑み。それは遠い昔、永観律師を励まされた時のまま。阿弥陀さまの慈悲のかたち。これがこれほど具体的にあらわされている佛さまは例がなく、「みかえり阿弥陀」と呼ばれ、広く知られています。

現代の私たちが、みかえり阿弥陀のお姿に教えられるもの、それは、遅れる者を待つ姿勢、思いやり深くまわりをみつめる姿勢、そして自分自身をかえりみ、人々とともに正しく前へ進む姿勢。それはまた、阿弥陀さまの私たちにへの想いなのです。

主な行事

みかえり念佛行道会 2月14日～15日
永観律師のひたすらな心を慕い、一夜を徹してご本尊「みかえり阿弥陀」のまわりを念佛行道します。真冬のはりつめた空気のなか、きびしくも清々しい佛道修行が体験できます。（予約要）

緑蔭法話 8月1日～3日

盛夏の朝7時から、放生池畔で、ご法主がやさしく佛の教えを話されます。聴聞の方々のすぐ前で、親しくご法主が法話をされる寺院は京都でも珍しく、毎年、多くの善男善女が訪れます。

除夜会 12月31日

大晦日11時からの法要の後、午前0時から参拝者の皆さんに鐘を叩いていただきます。阿弥陀堂では、ご本尊の前で写経もでき、心静かに新年を迎えられます。

特徴と見どころ

- 1 東山を背景に、阿弥陀堂をはじめとする古建築が、緑と水に恵まれた庭に調和しています。古来、都びとに愛された優美な景観のなかで静かなひとときを過ごしていただけます。
- 2 「もみじの永観堂」は、全国にその名を知られています。境内を染め上げる紅葉はもちろん、お堂や回廊のすぐ目の前にせまってくる鮮やかな岩垣紅葉は、ここで見られないものです。
- 3 みかえり阿弥陀のほか、びんずる尊者像など、功德ある佛さまを拝むことができます。
- 4 斬新なデザインと彩色で知られる長谷川等伯とその一門による「竹虎図」「楓雉子図」など、桃山時代の金碧障壁画の傑作が観られます。また、国宝「山越阿弥陀図」や重要文化財「当麻曼陀羅図」など、多くの宝物を所蔵しています。



【阿弥陀堂】

ご本尊「みかえり阿弥陀」がまつられる本堂。慶長12年に大阪から移築された。室内は極彩色で、格天井には「百花」が描かれているが、両端の長方形の部分だけは、白く塗った「散り蓮華」となっている。



さんご 【三針の松】

葉先が3つに分かれている珍しい松の古木。「三針」は、「智慧」「慈悲」「まごころ」を表す。この松の葉を持っていると、3つの福が授かるといわれる。

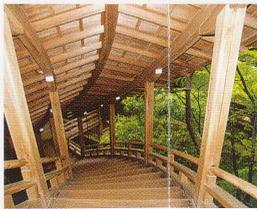


ひでんばい 【悲田梅】

永観律師は、境内の梅の木に実がなるのを待ちかねて、貧しい病人に施したといわれる。その梅の木は、いつしか「悲田梅」と呼ばれるようになり、今も永観堂の境内でかわいらしい実をつける。

がりゅうろう 【臥龍廊】

山の斜面にそって、巧みに木を組み合わせてつくられた廊下。起伏が激しく、龍の体の中を歩いているような不思議な気分が味わえる。



【多宝塔】

上部は円形、下部は方形の二重塔。五重塔のように、屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは珍しい。ここから京都の町並みが一望できる。



ひよ 【火除けの阿弥陀】

瑞紫殿の本尊。禅林寺開山の真紹僧都は5体の佛像を安置したが、応仁の乱で他の4体は燃えてしまった。この像だけが奇跡的に残ったため、「火除けの阿弥陀」として尊ばれた。



【釈迦堂】

方丈。室町時代の建立とされ、本格的な書院造りとして知られる。6間からなり、それぞれが「松鳥図」や「群仙図」などの華やかな襖絵で飾られる。



からもん 【唐門】

天皇の使いが出入りするときに使われた勅使門。釈迦堂との間に盛り砂がつけられている。勅使はこの盛り砂を踏んで身を清めてから、中に入った。



竹虎図(虎の間)

5 「火除けの阿弥陀」や「三針の松」「悲田梅」など、永観堂七不思議が楽しめます。